

高校生による日常的な「はがき新聞」の活用実践

－生徒の発想と表現力を高めるために－

Daily Use of ‘Postcard Newspapers’ by High School Students

－ Enhancing Students’ Creativity and Expressive Skills －

福田浩三

Kozo FUKUDA

(兵庫県立伊川谷高等学校)

1. はじめに

「はがき新聞」とは、児童生徒がはがきサイズを主とする制約ある大きさの紙面に読み手意識をもって新聞形式で要点をまとめ、表現する取組みであり、様々な実践例がウェブや書籍等にて紹介されている。しかし、その実践例は小中学校の児童生徒のものが多数を占め、高校における実践例は限られている。そこで今回、筆者が勤務した兵庫県立伊川谷高等学校にて2019年度から2025年度までの7年間、公益財団法人理想教育財団より助成を受けて行なった「はがき新聞」の実践についてテーマ別に分類し、

- ・実践の概要（目的・進め方・考察）
- ・生徒の作品

の順にまとめ、ここに報告する。

兵庫県立伊川谷高等学校は、2022年度から2025年度までの4年間、一般社団法人日本新聞協会のNIE実践指定校であり、また2023年入学生については全員が「朝日中高生新聞（週刊）」を2年間継続して提供を受けるなど、常に新聞が身近にある環境であった。実践対象は筆者が当時担当した学年の生徒200名もしくは学校設定科目「コミュニケーション基礎」を受講する30名であり、授業や特別活動等で他の教員も自由に「はがき新聞」を活用できるよう、複数のサイズ、形式（縦・横・枠の様式等）の「はがき新聞」用紙をあらかじめ用意、保管した。

筆者は本稿における各実践に、クラス担任・学年主任・授業担当として関わった。「はがき新聞」は実践内容により、はがきサイズ・A5サイズ・B2ワイドサイズを使用した、特にはがきサイ

ズの用紙は学校行事が行なわれる毎に、その感想を生徒に「はがき新聞」で表現させることで、生徒が「はがき新聞」を日常的に作成する環境を整えた。完成した作品は、「透明ポケットミテモテ（理想教育財団提供）」を活用する、またはカラー印刷を行ないホームルーム教室棟の廊下に掲示することで、学年の生徒全員が自由に閲覧できるようにした。これにより、生徒は他者の作品を次回の自作品の参考にするなど、表現力の向上に繋がった。さらに、学年内で「はがき新聞」の生徒相互評価を行なうなど、生徒間での「はがき新聞」作成に対する意欲向上に努めた。



図1 「はがき新聞」の相互評価の様子

※A5サイズの「はがき新聞」のため、スキャナーで取り込み、カラー印刷したものを掲示

また筆者は、近年の児童生徒の手紙を書く経験が少ないことに着眼し、「はがき新聞」実践の一環として、日本郵便株式会社が行なう「手紙の書き方体験授業」での教材支援（官製はがきを生徒人数×2枚）を受け、「はがき新聞」を実際に生徒の手で投函させる実践も行なった。これにより生徒は、はがきの出し方について経験をもとに学んだ。

2. 「はがき新聞」の実践

2.1 卒業レポートの作成

(1) 概要・目的

高校生活三年間の「総合的な学習の時間」で学んだ内容の集大成として、生徒が自由にテーマを設定しレポート作成を行う中で、適切な表現方法について考えた。作成したレポートは廊下に掲示して、生徒は自分のクラスの作品から内容やデザインを考慮した上で各自3作品を投票し、クラス毎に上位3作品を決定した。

本実践は筆者の「はがき新聞」を用いた初の実践であり、次年度以降本格的に「はがき新聞」を用いた教育を行うためのプレ実施であった。

(2) 実践データ

対象：2017年入学生（3年）全6クラス224名

時数：総合的な学習の時間 計6時間

はがき新聞サイズ：A5サイズ

(3) 実践のポイント

- ・4時間程度で作成可能な適切な題材を考える。
- ・型にはめず、できるだけ自由に書かせる。
- ・生徒間で互いに内容を相談しながら制作できるようにする。

(4) 活動計画

時間	学習内容	指導上の留意点
1 計画・構想	・卒業レポート作成について生徒に説明を行う。 ・卒業レポートの課題設定を行う。課題は複数の分野・テーマを提示するが、基本的に自由に設定する。 ・与えられた時数における作成の流れを考える。 ・課題に基づいたレポート作成に必要な資料について考える。	・下書き用の用紙（縦書き用・横書き用）を配り、自分の課題にあった用紙を選択させる。 ・小中学生のはがき新聞の作成例を提示し、生徒に完成像をイメージさせる。
2～5 作成	・定まった紙面において、必要な見出しと内容、資料等を精査する。 ・レポートを読む人に、より内容が伝わるレイアウトや文面、効果的な色の使い方等について考える。 ・清書用紙を用いて作成を行う。	・生徒間で自由に意見交換を行わせ、作成内容に反映しやすくさせる。 ・完成後にスキャナーで取り込む事を考慮し、コントラストの強い配色を心掛けさせる。 ・生徒番号、名前は裏面に書かせる。
完成・提出		

6 相互評価	・完成作品を各作品に番号を割り当て、クラス毎に廊下に掲示する。 ・生徒は自分のクラスの作品から優秀と思う推薦作品3点を選ぶ。	・今回は評価の観点等については特に指示を出さず、生徒に自由な観点で選ばせる。
-----------	---	--

(5) 今後の課題

学年における「はがき新聞」の活用は今回が初めてであったため、レポート作成にあたっての注意事項等を十分に生徒へ伝える事もなく作成が行われた。作成物の参考例を参照させれば、作成物の平均的なレベルは向上すると考えられるが、同時に生徒の自由な発想の幅を狭めてしまう事にも繋がる筆者は考えた。そこで、時間を要するが、指導者が指導する内容は最低限度の内容にとどめ、「はがき新聞」の活用実践を複数回行う事で生徒自身に気付かせていくことが重要である捉え、その中で以下の点を今後、「はがき新聞」の実践実施前に検討しておくべきであると考えます。

- ・記載内容に対して、引用や参考文献として示す必要性について先に学習する
- ・見た目の華やかさやレイアウトのこだわりに終始するのではなく、伝えるべき内容を伝える事ができているかを重視する
- ・レポートの題材が高校生として相応しいものであるかを検討する
- ・生徒同士での相互評価のフィードバック方法について（今回は時間の都合上、生徒各自が自分の推薦する作品を3作品選び、それを集計して上位3位を決定するに留まった）

(6) まとめ

「はがき新聞」を活用した授業実践は、生徒の表現力を高める事に有効であると考えられる。高校生活3年間の中でこれを計画的に継続して行う事で、

- ・表現力を高める
- ・決められたテーマについて学ぶ
- ・評価の観点を学ぶ

などの能力を生徒自身が高める事が可能であると考えます。

2.2 「はがき新聞」の導入

(1) 概要・目的

生徒全員へのタブレット導入など、書くことによる学びが減っている現在において、「紙に書いて思考力を養う」という学習は、その機会を生徒に与えることが今後の教育活動において重要であると考え。そこで、新入生に対して「限られた紙面に伝えたい内容を効果的にまとめる」ことを目的に、自己紹介文を「はがき新聞」にて作成し、廊下へ掲示することで、相互共有を促した。

以後、学校行事の度にその感想を「はがき新聞」にまとめる作業を行なうことで、教師が特別な指導を行なわなくても、生徒は「はがき新聞」で感想を書くのが当たり前の状態を作り出すこととなった。

(2) 実践データ

対象：2020年入学生（3年間）全5クラス201名

：2023年入学生（3年間）全5クラス201名

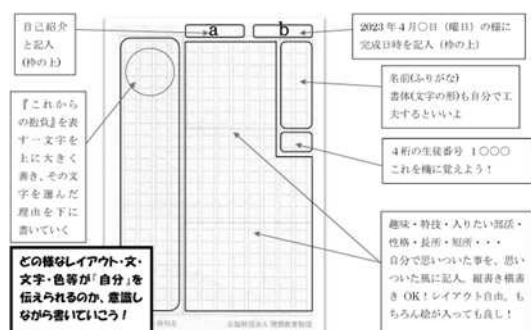
時数：2020年入学生は新型コロナによる緊急事態宣言での自宅学習中の課題として実施。

2023年入学生は入学後のLHRを活用

はがき新聞サイズ：はがきサイズ

(3) 実践のポイント

・自由な発想で「はがき新聞」を作成してもらうために、生徒への指示は図2の程度に留める。



はがき課題 自己紹介をしよう！

マス目が小さいので、1マス1文字でなくて構いません。文字の大きさは自由。

左側の『これからの自分』は名前をイニシャルに替えて学年通信に載るかち？

本家大元の新聞を思い出して書いてみると良いかも

これから3年間、こんな感じで『はがき新聞』をたくさん書いてもらいます。

一番上の枠a、bは外枠のすぐ上に、他の内容は用紙外枠内に収まる様に書く。

完成した作品は、毎度各教室の廊下側窓に掲示して誰もがみられる状態にするので、常に「人に見られる」事を意識して書いて下さい。

図2 「はがき新聞」の説明プリント

(4) 「はがき新聞」のその後の活用について

「はがき新聞」を教員がいつでも自由に活用できるように、様々なサイズ、様式（縦・横書き用）の原稿用紙決められた場所に置いたところ、教員が独自に様々な形で活用した。その内容は、

- ・推薦図書紹介（LHRにて）
- ・進路の説明を受けて感想（LHRにて）
- ・七夕の願い事（LHRにて）
- ・6月のありがとう・7月の目標（課題）
- ・修学旅行の英語での感想（英語コミュニケーション、A5両面）

などであった。また、上記以外にも学年全体の取り組みとして、

- ・行事ごとの「感想はがき新聞」の作成
- ・夏休み進路課題をまとめよう（総合探究課題）を行なった。

(5) まとめ

生徒に入学後の早い段階で、「はがき新聞」を作成することが当然という認識を持たせることが、教育活動における日常的な「はがき新聞」の活用に繋がるということが分かった。また、作成された作品を毎回廊下に掲示して、生徒間での共有を図ることにより、行事の感想などの場合は単なる文章の羅列に留まらず、他者に読まれることを意識した「新聞」としての作品にまとめられた。さらに、その紙面レイアウトは一般的な日刊紙の枠を超え、生徒の感性に沿った独自進化を果たすものが多数現れた。

(6) 他の実践への発展

はがきサイズの用紙に伝えたい内容をまとめることに生徒が慣れた頃に、日本郵便株式会社の行なう「手紙の書き方体験授業」の一環として、生徒一人当たり2枚（およそ400枚）の官製はがきの無料提供を受け、「手紙作文コンクール」に応募するなど、実際にはがきの表書きを行ないポストに投函する体験を生徒に行なわせた。また、はがきの送料が63円から85円に値上げされた時には、22円切手を用意して生徒に貼らすことで、切手を貼る体験も行なわせた。



はがきサイズ

2.3 SDGs レポートの作成

(1) 概要・目的

近年、生活の場面でよく見られるSDGsについて、その内容を理解すると共に、個人も世界と繋がっているということを意識した行動を生徒に促すため、SDGsの全体学習の後、生徒が各自でSDGsに関する課題を設定し、A5用紙の「はがき新聞」を作成した。作品は廊下に掲示することで、生徒間の共有および相互評価をした。

(2) 実践データ

対象：2020年入学生（1年）全5クラス198名

時数：総合的な探求の時間 計4時間

はがき新聞サイズ：A5サイズ

(3) 実践のポイント

- ・4時間程度で作成可能な題材を考える。
- ・1人1台のタブレット端末を使用する初の調べ学習である。

(4) 活動計画

時間	学習内容	指導上の留意点
1 SDGs 講演会	SDGs についての全体学習を行う。 T氏(株式会社さんぽう)による SDGs 講演会『SDGs を知ろう』を開催し、以下の点を中心に学習する。 ・世界と自分のつながり ・社会の変化に対応する力 ・身近な課題の発見 ・課題解決の方法について 講演の最後に SDGs17のテーマ毎に4～6ある課題(計80課題)から1つを選び、次回以降の学習テーマとする。	・学年全体対象の講演会であるが、生徒は各教室にてオンライン視聴の形式で受講する。 ・生徒に適時メモを取らせる。
2～3 調べ 学習	前回の SDGs 講演会を受けて、選択した課題について、以下の点に注意しながらワークシートを用いて調べ学習を行う。 ・なぜこの課題を選択したのか ・調べたこと・分かったこと ・SDGs 達成のために必要なこと ・自分が今からできる取り組み	・1人1台タブレット PC を渡し、調べ学習に活用させる。 ・日経新聞第二部(別刷)を配布し、SDGs 特集を参考にさせる。
3～4 レポート 作成	ワークシートに整理した内容を元に、定まった紙面(はがき新聞 A5 サイズ)において、『人に伝わる内容・表現』にこだわりレポートの作成を行う。 ・必要な見出しと内容、資料等を精査 ・レポートを読む人に、より内容が伝わるレイアウトや文面、効果的な色の使い方等について考える。 ・引用元の記載等にも注意する。	早めにレポートを仕上げた生徒には、SDGs の自学自習として『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』(一般社団法人 Think the Earth 編著)を読ませる。

(5) 今後の課題

学年における「はがき新聞」用紙の活用は複数回行なわれていたが、その内容はグループ学習や1時間完結の学習などで、時間をかけた本格的な調べ学習およびA5サイズの「はがき新聞」の活用は今回が初めてであった。「はがき新聞」を用いた効果的な表現法について、講義等を行なうまでには至っていないのが実情であり、生徒間の相互評価(クラスによっては図3のように、半透明付箋に感想を書き、作品上に貼り合っていた)も含め、「はがき新聞」を用いた表現法の学習も今後時間を取って行いたい。

(6) まとめ

「はがき新聞」を活用した授業実践は、生徒の表現力を高めることに十分に有効であると考えられる。高校生活3年間の中でこれを計画的に継続して行うことで、

- ・表現力を高める
- ・決められたテーマについて学ぶ
- ・評価の観点を学ぶ

などの能力を生徒自身が高める事が可能であると考える。

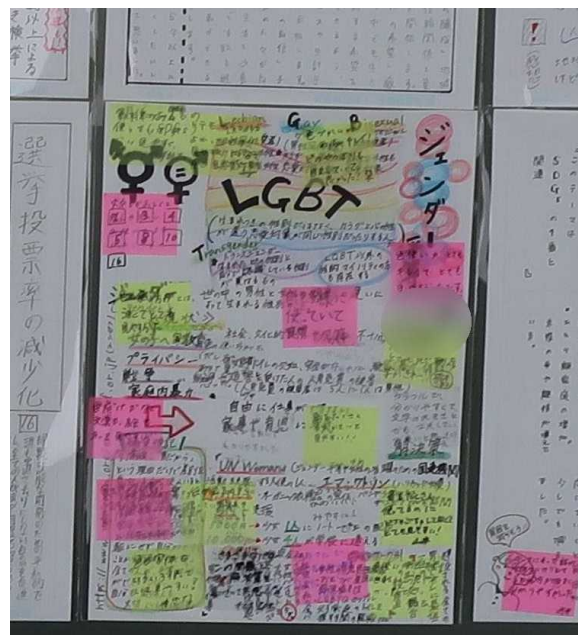


図3 付箋が貼られたはがき新聞

＜テーマを採った理由＞

- 普段自分がしていることから、海洋汚染につながっているかもしれないから。
- 今、自分たちにできることから、あると思うのと、世界的にも大切なことから。

SDGs 14. 7

＜現状＞

プラスチックゴミが捨てられると、それを
 鳥が飲んでしまい、死に至る生物も。

→ 魚が餌を間違えて食べてしまい、その魚を収穫し、
 食べることでよこたわしたちもプラスチックゴミを
 食べてしまっている可能性も...

海洋汚染

＜解決策＞

日本：ポイ捨て、不法投棄及び
 非自然的海洋流出の防止。

政府：テーマの10年間の目標も
 使うプラスチックストロを廃止。

学生：プラスチックゴミを捨てた自覚牌
 並べ水公園ができた。

ネット：海藻でできた食べれる
 包装紙を開発。

日本：食べれるビニール袋や弁当箱
 ができた。

＜考察＞

現在の世界の海に海洋ゴミや生活
 排水、化学物質の放出は主原因で汚染されており、海洋生物が大量死
 するなどの深刻な環境問題となっている。

→ 便利性が高く、安価で大量生産
 できるプラスチック製品は開発途
 上国の経済発展とともに需要が急
 増している。

→ **世界中で協力して取り組むことが大切!**

[illegible]

2.4 18歳成人レポートの作成

(1) 概要・目的

実践を行なう学年は、成年年齢が18歳に引き下げられる対象となる最初の学年であったため、総合的な探究の時間を活用して「18歳成人」をテーマに、以下の目的で人権教育プログラムを実施した。

- ・生徒の目の前に迫った18歳成人に対する意識向上と注意喚起
- ・教員に対する時間的負担が生じない方法での人権教育スキルの向上
- ・専門機関が学校現場において講座を開講する際に必要となる教育技術の供与

本プログラムは外部講師5名（弁護士・税理士・司法書士）により、クラス単位で5つの内容の人権講座を実施、以後クラスをローテーションして計5回、同内容の講座を実施することで、すべての講座について生徒がクラス単位で学習した。

生徒は講義を受講することで成人になることへの意識を高め、今後注意すべき自らの行動等について考えた。また、毎回の講義について、振り返りシートを記入した。そして、5回の講義修了後、自分が興味関心をもったテーマについての調べ学習を行い、A5サイズの「はがき新聞」にまとめた。作成した作品は全員分を廊下に掲示することで、生徒同士が内容の共有と相互評価を行った。

(2) 実践データ

対象：2020年入学生（3年）全5クラス194名

時数：総合的な探究の時間 計8時間

はがき新聞サイズ：A5サイズ

(3) 実践のポイント

- ・担任教員は自身の18歳成人に対する知識理解を深め、それを今後の教育活動に活かすために、毎回の講義を担当クラスの生徒と一緒に受講する。
- ・外部講師は教員や生徒からの講義感想等のフィードバックを次の講義に反映（ワークショップの導入、配付資料の改良など）することで、高校生に対する講義力を高める。

(4) 活動計画

時間	1組	2組	3組	4組	5組
予告(6/6)	講師から学年の生徒へ予告				
講義1(6/13)	①	②	③	④	⑤
	教材・内容の修正				
講義2(9/5)	②	③	④	⑤	①
講義3(9/12)	③	④	⑤	①	②
	教材・内容の修正				
講義4(9/26)	④	⑤	①	②	③
講義5(10/3)	⑤	①	②	③	④
まとめ学習 3時間	事後学習（興味関心の高い内容のはがき新聞へのまとめ）				

①少年事件、少年犯罪【弁護士】

②税金・投資・保険等、社会生活にまつわるおカネの話【税理士】

③契約上のトラブル事例について【司法書士】

④インターネット・SNSにまつわる諸問題と近時の裁判例について【司法書士】

⑤就職・労働に関する基礎知識【司法書士】

(5) はがき新聞によるまとめ学習

対象生徒は1年次より学年活動において「はがき新聞」を活用しており、タイトルや小見出し、全体のレイアウトの決め方等に慣れているため、3時間の作成時間にてほとんどの作業が終了した。作品は廊下に掲示し、「分かりやすいか」「独自の意見や思いが伝わってくるか」「読みやすいか」「まとまっているか」を観点に相互評価を行った。また、すべての作品は実際に講義を行った外部講師にも評価依頼をし、以下のような講評を得た。

・見た目の綺麗さやまとまり具合よりも、自分の思うところがしっかり書かれた記事を選びました。授業の内容以外にも、司法書士の仕事に興味を持って下さった方がいた事がとても嬉しいです。

・数名の方が、インターネットのサイトをそのままコピペされていましたが、そういうのはだいたいバレます。大学の卒論などでやってしまうと取り返しのつかないことになりますので気をつけましょう。

(6) まとめ

本プログラムでは、「正しい情報を選び理解する」「必要な情報がより相手に伝わる表現法の学習」に重点を置き、18歳成人を題材にネット社会における他者とのコミュニケーション力の向上を図った。「はがき新聞」の活用は、本プログラムのようによりまとめ学習にはA5サイズのものを活用する事がより高い学習効果を与えるものと感じた。

2.5 「やさしい日本語」新聞書き換え講座

(1) 概要・目的

生徒が新聞記事を「やさしい日本語」を用いて「はがき新聞」にまとめ直すことにより、母語である日本語についての理解を深めるとともに、多文化共生社会における情報伝達の手段としての文章表現について考えた。新聞記事は、生徒各自がより興味関心をもった内容となるように、「ひょうご新聞感想文コンクール」へ応募するため選んだものを用いた。

A5サイズの「はがき新聞」を用いることで、単なる文章の書き換えでなく、限られた文字数、紙面サイズという制約の中で、必要な情報を視覚的にもより伝達しやすい形となるような創意工夫を促した。完成した作品は生徒間での相互評価を行うことにより、その表現の共有を行った。

(2) 実践データ

対象：「コミュニケーション基礎」受講者

2021年入学生（1年）30名

2022年入学生（1年）30名

2023年入学生（1年）29名

2024年入学生（1年）28名

時数：コミュニケーション基礎（学校設定科目）計5時間

はがき新聞サイズ：A5サイズ

(3) 実践のポイント

- ・生徒の日本語力・表現力・ICT活用力がより高まるような指導を心がける。
- ・班別作業を最大限に活用し、生徒間で活発な意見交換を行い作業が進むよう留意する。

(4) 活動計画

時間	★目標	○学習内容	・学習活動	指導上の留意点
1 特別講演	・「やさしい日本語」の必要性について考える	・班ごとに話し合いながら実際に「やさしい日本語」の書き換えを行う。		・個人で実施可能な多文化共生の社会の実現について考える。
2～4 書き換え実施	・6人ずつの5班に分かれ、以後の作業は班単位で行う。	・各自選んだ新聞記事の中から、伝えたい内容や要約に外せない箇所を選び出す。		・書き直す文章の要約・文章変換の時間配分を適切に行う。

	・A5用紙への記入する見出し、写真やイラスト等の有無を検討し、大まかなレイアウトを考え、それを元に記事の書き換え後の文章量（文字数）を決める。 ・書き換えた文章を元に、視覚的にも読み手に内容が伝わりやすくなる様に文字やその他のデザインを工夫する	・書き直す文章における必要な事柄を考える。 ・適切な文章表現および紙面レイアウトについて検討する。 ・効率よく紙面作りを行う。
5 発表	・班内で1人3分間書き換えた記事の発表を行う。発表では記事の読み上げと、成果物（まとめたA5用紙）の工夫点等の説明を行う。 ・班発表終了後、班代表作品を1つ決める。 ・各班で選んだ5つの代表成果物の全体発表を行う。	・自分のまとめた内容および工夫点について正確に理解する。 ・聞き手のことを考えながら発表を行う。

※本講座で多文化共生に興味を持った生徒4名が後日、在籍生徒の8割が外国籍である地元の夜間中学校を訪問し、「やさしい日本語」を活用して生徒間交流を行った。

(5) 今後の課題

生徒が新聞記事をまとめ直した内容は、必ずしも元となる新聞記事の要点を捉えたものとはいえなかった。「やさしい日本語」を用いてまとめ直す前に、生徒が新聞記事を十分に読み込み理解する時間が必要であったと考える。また、講座を受けた生徒全員が多文化共生社会を体感できるまでのプログラムの開発が望まれるところである。

(6) まとめ

今回「やさしい日本語」の書き換えに用いた記事は、生徒が「ひょうご新聞感想文コンクール」への応募のために選んだ新聞記事である。このため生徒は皆、

- ・どのような文章にすれば、読んだ人に伝えたい内容がよりよく伝わるか
- ・伝えたい内容の要点をどのようにすればまとめられるか
- ・興味関心が高まる紙面レイアウトにするにはどうすればよいか

等を踏まえながら、興味を持って書き換えに取り組んでいた。実際の書き換え時間は3時間であったが、もう少し時間をとった方がより良き作品になると感じられた。しかし少ない時間の中で、生徒たちは話し合いやタブレット端末の活用により、懸命に課題に取り組んでいた。

いのちの電話
相談員(減) 1131

「いのちの電話」とは
悩みをもっている人、つらい思いをしている人、話を聞いて欲しい人、話を聞いて寄り添い、悩みを減らすお手伝いをしていくボランティアグループ。

そんな「いのちの電話」の相談員が年ごとに減っている。

夜の時間、話を聞く体力がなくなった。

人の話を聞くことは地味なことだと思われている。

感想
近くに話を聞いてくれる人がいない人にとって、いのちの電話はとても大切な存在だと思おうので、これ以上相談員が減ってほしくないなと思います。

2021年と東京オリンピック

今、新型コロナウイルスが世界中で性別、年齢と問わず流行している。そんな中、日本で東京オリンピックが開かれる。

2021年の夏休み前から変化した新型コロナウイルスが流行した。その変化した新型コロナウイルスの名は、**デルタ株**。

今までのコロナ
新型コロナ「デルタ株」
2倍以上の感染力！

2021年3月に東京でオリンピックが開かれた。東京オリンピック2020では、33競技が実施される。選手の入数はなんと、**約1万1000人**。

される。選手の入数は、**約1万1000人**。

みなさんは、この東京オリンピックを聞くことに賛成です。反対ですが、広がる力が大きいウイルスが流行しているから東京オリンピックを反対する人は多いだろう。けれど、日本の経済が回らなくなっている。何とかしたい。何かできるのか。

若い人の接種
普及がまだ分かりません

★ ワクチン接種が進んでいるアメリカでは、若い年代の接種が課題になっている。打った後に痛みや、熱などの副反応が出る回数が多いという。

★ 高校生ら約2200 間違えた情報
久にアンケートをした所、希望しない理由は、「副反応が怖い」が最も多かった。最近ネットや周りから、間違えた情報が若い世代の不安を呼んでいる。DVDなどで良い効果を分かりやすく伝えたい。

ワクチン接種に関するアンケート

接種しない 14.8%
接種する 26.9%
合計 2242人
34.7%
21.1%
強制でなければ接種する。

東京オリンピック開催
東京五輪が観客を入れて、開催されることになった。この国では「零田気」がものを決める。ゆっくり返すような事が起きない。限りこの大会は開催されるだろう。

< テーマを選んだ理由 >

- ドラマやニュースで題にされることが多くなってきて初めてジェンダーレスの問題を知ったから。
- SDGsの内容を深く勉強した時にとても共感したから。

< SDGsとは >
持続可能な開発目標
↓
サステナブル デVELOPMENT GOALS
< ジェンダーレス >
男女差がなく平等な社会

< 男女格差の順位 >

1位 アイスランド
2位 フィンランド
3位 ノルウェー

116位 日本

女性議員をもっとひやす
給料を見直す

< 現状 >

- 日本は調査対象となった146カ国中 116位で先進国の中でも最下位となった。
- 日本は教育、健康ではほぼ男女平等になっている一方、女性議員などの給料の差が原因で経済でも下がってきている。

< 感想 >

自分がジェンダーレスが進んでいるなど思ったのは、制服です。女子はズボンかスカートを選ぶのに男子は選べないというのが現状でしたが、今や男子もズボンかスカートを履くようになりました。男子もスカートを選べるようになってきています。ですが、私達のおえない所ではこういう問題が起きていて自分達も。と知ることが大嫌いだと思いました。

A5 サイズ

2.6 壁新聞用紙の効果的活用

(1) 概要・目的

壁新聞用紙は紙面の大きさを利用することで多くの情報を伝えるツールとして発表等の場で活用される。しかし、これらの紙面作成にはかなりの時間を有することも少なくない。そこで本校では壁新聞を大きな「はがき新聞」と捉え、生徒が職業別進路ガイダンスで得た知識を短時間で共有可能にするためのツールとして活用した。

(2) 実践データ

対象：2023年入学生（1年）200名

時数：LHR 計2時間

壁新聞サイズ：B2ワイドサイズ

(3) 職業別進路ガイダンスの開催

本実践の事前準備として、LHRの時間を活用し、職業別進路ガイダンスを実施した。本ガイダンスでは職業を32の分野に分け、分野ごとの説明は専門の外部講師が担当した。生徒は事前の希望調査を元に、興味関心を持つ分野に分かれて50分間のガイダンスに参加した。各分野における受講人数は、最大22人から最小1人と分野によって様々であった。生徒はガイダンスを受ける際、記録を取り資料を手にするすることで、参加した分野に関する知識を得た。

(4) グループワークによる壁新聞制作

職業別進路ガイダンスを開催した翌週、同じ分野の話を聞いた者同士がグループとなり、LHRの時間を活用して、体育館で制限時間内に解説壁新聞を作るグループワークを実施した(図4, 5)。グループのメンバーは、話を聞いた分野の参加者が多数の場合はその分野の参加者を複数のグループに分け、1人の場合はその1人で1グループとしたため、学年全体で57のグループ数となった。

最初に解説壁新聞の作成に関する説明を専門の外部講師が全体に10分で行い、残り40分で生徒は解説壁新聞を作成した。壁新聞の用紙は理想教育財団の助成品を使用した。複数名の生徒がいるグループでは、初めに記入する内容についてグルー

プ内で話し合い、各々が持ち寄ったメモや資料を基に記事を作成した。壁新聞の紙面の大きさを活用し、複数人で同時に紙面作成を行うグループも多数あった。記入には太いマジックを用いた。完成した壁新聞は、紙面をデジタルカメラで撮影することで画像データ化した。

(5) 壁新聞による情報の共有

データ化した壁新聞を分野別に4枚ずつまとめ、A3用紙にカラー印刷した（1つの解説壁新聞はA5サイズとなる）。これを生徒教室の廊下側窓に掲示する(図6)ことで、誰もが廊下の通行時に解説壁新聞を見て職業別進路ガイダンスの内容を共有することとなった。

(6) まとめ

本実践では共有したい情報を短時間で紙面にまとめる手段としてB2ワイドサイズの壁新聞用紙に着目した。実質的な用紙記入時間は30分程度であったが、それでもはがきサイズ程度の情報を記入することが可能であったことが、作成された壁新聞から判断できる。また、紙面に掲載されている情報が少ないことから、A5サイズに縮小掲示しても、判読に充分耐えうるものであった。その作品ははがきサイズに縮小すると、はがきサイズで作成された「はがき新聞」と非常に似通っていた。これらのことから、壁新聞用紙も「はがき新聞」と同様の活用が見込まれるものと考えられる。



図4 体育館での様子



図5 グループでの様子



図6 縮小印刷し廊下へ掲示

保育について

★保育士と幼児教育
保育士とは子供と遊びだけでなく、子供の体調管理や子供同士の関わりをよく見て観察する必要があります。
★どんな資格があるの？
・保育士資格
・幼稚園教諭二種免許状
・幼稚園教諭
・保育士の仕事です。

保育士の1日

外国語国際学

分野について。
外国語学・気候・国土・文化・民族・社会・経済など。それだけでなく、深い知識が必要。
国際学・国際情勢と国際関係について研究する。

メンバー
ツアープランナー
通訳案内士
パイロット、キャビンアテンダント

その他の情報

危険な国が分かる。
・日本はめずらしい(水など)
・外国人にとって日本語は、漢字、カタカナ、ひらがなの3種類があり、難しい。

英検
TOEIC
ナドナド

体育学の道

分野

・体育スポーツについて総合的に研究する学問
・健康と運動スポーツの支持・保健・体育の教育
・健康や体力の保持・増進を通して、社会への貢献する。
・人体の構造やその働きを学ぶ。

体育とスポーツは
全然ちがうもの
スポーツは体を鍛えたり、力をつけたり、競技したり、目的をもって行うのに対して、体育は教育の一環として、体の健康を目的とする。

スポーツ化
機械など、運動技術やパフォーマンスを強化していく

コーチング学
コーチをトレーニングする

旅行・観光・ホテル

エアライン

主な職業
パイロット
キャビンアテンダント
整備士
案内する人

仕事内容
目的地に着くまでの、初めから結末までの流れを
・荷物管理
・飛行機の操縦
・飛行機の整備

ホテル

主な職業
受付
シェフ
清掃員
案内する人
調理と運ぶ人
料理を作る人
おもてなしの心
人をおもてなしする気持ち

仕事内容
・初めから結末までの流れを
・部屋に
・ドレス・タキシードの相談
・ウェディングケーキや料理を作る
・式を進行する
・メイクやヘアアレンジ

English / AB
DE
wedding / smile / kindness

2.7 校外学習の事前事後学習での活用

(1) 概要・目的

GIGAスクール構想により急速に進んだ教育のデジタル化やSNSの発展の中、はがきを書いて実際に投函するといった旧来の文化は今後、教育の過程における体験により守られる重要な要素になると筆者は考えた。

そこで今回、本校の2年生が実施する京都遠足を題材に、高校生に「はがきを書いて投函する」経験を持たせると同時に、事前学習および事後の振り返りにおける「はがき新聞」の活用、学年通信における特集記事の掲載により、研修先である京都への興味・関心・探究心を深めると共に自己表現力を高める試みを行った。

(2) 実践データ

対象：2023年入学生（2年）199名

時数：家庭学習とLHR 計2時間

はがき新聞サイズ：はがきサイズ（2枚）

(3) 実践の内容

時間	★目標 ○学習内容 ・学習活動	指導上の留意点
事前学習①	3月上旬に学年集会にて生徒に遠足の行き先（京都市東山区）を発表、調べ学習課題を官製はがきに行い、学校の担任宛に3月19日必着で投函するよう指示する。 ・級友との親睦および研修先への興味・関心・探究心を深める ・限られた紙面にて読み手に内容を伝えるための表現を考える。 ・はがきの投函経験を持たせる。 ・はがきの宛名面の書き方における指導の要点を教師が把握する。	・調べる内容は京都に関するものであれば可 ・Webで調べた内容をそのまま写さない ・出展や参考文献を明記する
事前学習②	・学校に届いた「はがき新聞」は、観光・建物・食べ物・歴史・いろいろ、の5種に分別し、4月に学年の廊下へ一斉に掲示した。生徒はこれらの作品を互いに確認することで、京都についての知識を深めると同時に、「はがき新聞」へのまとめ方について考えた。	学年通信に以下の内容を掲載。 ・教員の京都遠足下見の様子 ・京都の抱える課題 ・京都の見どころ
校外学習の実施	目的は以下の通りである ・集団の一員としての自覚を高め、規律ある行動を考える。 ・班ごとに主体的・計画的に行動しながら、お互いの親睦を深める。 ・古都京都の歴史や文化にふれ、それらを学び豊かな心を育む。 現地集合、班別に散策、集合場所にて現地解散の形式で実施した。	活動中に、「はがき新聞」を用いた調べの内容の確認や考察を可能な範囲で行うよう、事前に指示する。
事後学習	感想を「はがき新聞」にて作成、掲示する。	

(4) 結果と考察

本実践を行った学年は、入学時から繰り返し「はがき新聞」の作成を行っているため、見出しの付け方や図・イラストの入れ方など、生徒の表現力が高まっている。しかし、京都調べ学習においては情報の出所や引用先を明らかにしていない作品も多くあり、これらを明記に対する指導の必要性を感じた。また、下調べをまとめた「はがき新聞」を担当充てに投函するように指示をしたが、大半の生徒が学校住所の次に学校名を記載せず担任名を書いていた。さらに、

- ・敬称を付けていない
- ・誤った敬称（〇〇先生様、伊川谷高校様など）
- ・住所の修正を二重線で行う
- ・差出人が住所のみで名前が書かれていない
- ・はがきの表裏で上下が逆
- ・必着日までに届かない

など、はがきを出す習慣のない生徒への指導の要点（敬称の付け方、必着の意味など）が明らかとなった。これら以前は生活の中で得られた知識についても、学習の機会を持つ必要があると考える。

「はがき新聞」による生徒感想を読む限りでは、生徒各々が京都遠足を楽しんでいたことが分かるが、各自が事前学習によって調べた内容の確認に触れたものは少なく、「課題の設定」と「課題の確認」という本来の目標は達成するにいたらなかった。

(5) まとめ

「はがき新聞」の作成と「学年通信」の活用により、生徒は遠足当日だけでなく、その前後においても京都について多面的に考える事ができた。継続した「はがき新聞」の作成により、その作品から生徒の「書くことによる表現力の向上」を見て取れた。

事前調べ

事後感想

2024年 3月13日

京都の食べ物

15分 著者 京都2回目

① おばんざい

京都の家庭で食べられるおばんざい、大塚茶茶、乾物、大豆製品を主へに調理された質素で体にやさしい料理のこと！



今回は紹介してみたいと思います!!

② わらわい

わらわいの地下釜、からとれ
 するわらわいに水と砂糖を
 加え火にかけて作られる。手回りがわり本物のわらわいとは価格を高められる。

ポテトチップスのポーチン



ポチカ京餅が売られるには??

ポリ権



中にはポチン?

抹茶味ポチン



抹茶味!

生茶黨女用ポチン 5/10枚



③ 生茶黨

中々面白いこと、お茶は生茶で飲むのがいい、お茶は生茶で飲むのがいい、お茶は生茶で飲むのがいい。

7橋食べたいもの...それは! 八つ橋ソフトクリーム



これが中の... 松乃亭で見た美味そうなもの。

観光地の数は日本最多!?

京都の世界文化遺産は、**16社寺・城の計19所**もあります。また、日本の伝統的な文化や景観を維持している街で、四季折々の風景や変化や豊かな自然が身近にある環境、時代劇などに出現する歴史的な建物、人観光客に人気の理由です。

京都観光

外国人観光客の割合

Category	Percentage
国内 (Domestic)	40%
海外 (Overseas)	11%
その他 (Others)	49%

修学旅行・校外学習の行き先調査!

皆さんは小中・高などの修学旅行や校外学習でよく京都を訪れたことはありませんか? 京都は全国でも行き先には選ばれやすい場所 **1位!**

金閣寺・清水寺など神社仏閣を実際に見ることで、**歴史学習**になるからです。

京都旅行にオススメの時期

春と秋

3月5日 ~ 9月5日

見どころ **桜と紅葉**

修学旅行・校外学習の行き先調査!

京都
西陣織

2024年3月18日(月)
12分

＜西陣織とは＞
西陣織は京都がはぐくんだ高級絹織物。
歴史は5〜6世紀頃、中国から伝わった。
渡来米、秦氏によって技術が伝えられた。

＜西陣の名の由来＞
元々はこの土地の時、西軍の山名宗全が
本陣を置いたので西側の陣だから。

＜西陣の絵とは＞
金閣寺を建てた14代將軍、
足利義政の後の型ではないので、自
分の味を次の將軍に与えようとしたと
いふ説もつせう事。すると、
毒である。日野富子と男の子を産む。(おねい)
次のおねとて天婦人になりかたがたする。
双方に細川氏、山名氏が付く大王に争い
はなつても、京都には織川といわたり
昔はこの川色地海ははなはだ程、京都の景が
良いと言われた。染めに西陣といわれ、だから

えんそく

遠足

作成者
2の2

始まりはミ

みなさん！京都は楽しかったです！か！普通に出発をしないが（心配）の方が大きかったのです！、集合場所に行く途中で友人たちが会って何となく行ったのですよ（笑）。

てへい！

音向

ボクらのアスの
ボクらのアスの
18時
ランチ
調べる。
当日
行列
待ち
わが
喫茶店
に行きまし。
おやつ

行き先 & お土産！

さて、私の行った所はななミ
なんど、ニ市坂です！そこでお土産を買いました！わが抹茶ときな粉の味のものを買いまし

行列待てない！

作成日 6/5/22/木

京都

アイスクリーム

マングーのやき氷
にソフトクリーム
がのつたやき氷を
食べました。

2311

嵐山に
行ってきた
ら団子も食
べました。

団子

班々皆で昼食に
うどんを食ました。
あんぱん種類のアイス
も食ました。

氷

京都水遊館に行きました。魚やクラゲなどを見てとても楽しかったです。バスで40分ぐらいかけて着きました。とても良い天気でした。

海鮮を食べました。とてもおいしくて、しょうゆも塩くもたれもイチャモはじめて食べました。少し苦手でした。

224

いすのは富士山がラブリクを食いました。ラーメンでもつかいいしくて、特にスープがいいでした。僕はチーミーメンを食べました。友達にギョウザがすごく好きです。お水をいっぱい飲んで帰りました。

京都遠足

大移動、続く。

朝早くから京都に向かつて二時間弱の電車、円山公園で集合した後、そこから約四、五キロメートルの道を伏見稲荷大社を目指して班のみんなが歩きまわった。それでクタクタです。

① 京都市の「グルメ」

伏見稲荷までの道、歩き疲れて休憩するため「豆乳白味噌味」のソフトを食べました。

② イカ焼き

円山公園のある八坂神社には屋台が出ていました。その中に、イカ焼きを食べました。

とこへ行ってものぼりざか

円山公園で集合し、解散したあと、まずは伏見稲荷大社へと到着しました。待ち受けていた次は清水寺へ来ました。ここでも長く、急な坂道があります。大移動が連続した坂道はすごいんじゃないかとです。

京うどん

すでじとか
あらぬの、
たうどん×
かあった。
しがあつて
のとてし◎

23/6

京都の抹茶
とても濃くて
苦が〆かあった。
のですでじコクがかった。

ラーメン1杯の清水寺
では風が快く
ひとりが美し
く見はらしが
良い。秋◎

京都遠足

二年坂

清水寺まで
行けなかつたけど、
食べ歩きを
たくさんしました。

ワママ
お土産がきました。

石が軽いわ、お願いか
うっ!! 班全員で
持ち上げました。
それそれ、成った重荷
が重いわ、と云ふ。
私、京都で一番行きたかった
場所、ワママ、
赤と黒の鳥居に数に
圧迫された。
テニスは爆発的!!
写真もたくさん撮れて
よかった、楽しかった。

伏見稲荷大社

おみくろ
おみくろ
おみくろ

おみくろ

おみくろ

2.8 オープンキャンパスはがき新聞

(1) 概要・目的

2年次の夏季休業前に進路別ガイダンスを実施し、生徒はそれを受けて夏季休業中に大学・専門学校等のオープンキャンパスを2校以上参加し、そのうちの1校について報告書を作成する課題を課した。その際、従来は規定のワークシートを用いていたが、該当学年の生徒については、まとめた内容を生徒間で共有することを目的に、「はがき新聞」を用いることとした。

(2) 実践データ

対象：2023年入学生（2年）199名
時数：夏季休業中課題
はがき新聞サイズ：A5サイズ

(3) 実践のポイント

- ・「はがき新聞」の作成を踏まえて、生徒がオープンキャンパスの説明をより集中して聴く
- ・他者のまとめたはがき新聞を共有することで、生徒は同じ学校においても自分の視点とは異なる視点での学びを得る
- ・就職希望者は職業調べ等、各自考えたテーマの「はがき新聞」を作成する

(4) 実践の内容

時間	★目標	○学習内容	・学習活動	指導上の留意点
進路別ガイダンス	7月中旬に株式会社さんぼう主催で進路別ガイダンスを実施。生徒は進路別に下記9つの分野から事前に選択していた希望分野について、その内容を聴いた。	・私立大学文系 ・短期大学 ・専門学校（調理、製菓、製パン） ・専門学校（上記以外） ・就職	・私立大学理系 ・看護医療系	ワークシートに重要なポイントをメモするなどして、オープンキャンパス参加時の注意点等を把握するよう促す
オープンキャンパス	生徒が個々に希望する大学・専門学校等のオープンキャンパス情報を調べ、複数校参加する。参加の際、ワークシートに説明内容を記録し、後の「はがき新聞」作成の準備を行なう。			複数校参加することで、それぞれの学校の特徴を比較する
はがき新聞の作成	オープンキャンパスに参加した学校のうちの1校について、ホームページ等の内容も参考にしながら、「他者に見せる」事を意識した学校説明用「はがき新聞」の作成を行ない、2学期開始時に提出する。			夏季休業中課題として、しっかりと提出を促す
作品共有	掲示された作品を閲覧することで、自分の気になる学校について他者視点での学びを得る。			作品を同じ分野、学校毎に集めて掲示する

(5) 結果と考察

生徒の自主性を重んじ、本課題については夏季休業前に図7に示す課題解説用紙を配布して、簡単な全体説明を行なうのみに留めた。その結果、生徒はオープンキャンパスには参加していたようであるが、生徒間で共有できるレベルの提出作品が少なく、廊下に掲示して生徒が互いに内容を共有するまでには至らなかった。しかし、提出作品の中には「他者が見る」事を念頭に分かりやすくまとめられたものも多数あり、生徒の進路に対する意識の違いを知る例ともなった。

オープンキャンパス 報告はがき新聞課題

2024年〇月〇日（曜日）の日にオープンキャンパスに行った日時を記入（枠の上に小さめに）

本用紙にまとめた学校名を記入。（学部や学科の記入は自由）

4桁の生徒番号 2〇〇〇 名前

自分が行った学校について、
・HPやパンフレットで調べた内容
・OCで自分で見たい・聞きたい内容
・自分の感想
などが、読む人がしっかり識別できるようにまとめる事

縦書き、横書き問わずやさしい日本語を意識して読者により伝わるように記入。レイアウト自由。図や絵が入っても良い！色もOK。

マス目が小さいので、1マス1文字でなくて構いません。文字の大きさは自由。

オープンキャンパスに行った2校のうちの1校について、その時に知った内容や自分で調べた内容を、周りの人と共有するためのはがき新聞を作成して、9/2（始業式の日）に提出。

オープンキャンパス訪問日時以外は、青枠の外側には記入しない（スキャナで読み取れない、印刷ができないので。）

全体的に『濃く』書いて下さい。印刷時に綺麗に出ます。（鉛筆で書かない様に。書類記入の練習も含め、ペン等で書いて下さい。色の使用は可ですが、薄すぎる色はスキャナで読み取れません。）

※就職等を考えている人は、学校紹介の代わりに『自分の気になる職業を調べてまとめた』ものでも構いません。

図7 生徒に配布した課題案内

(6) まとめ

オープンキャンパスで得た内容を「はがき新聞」にして生徒同士で共有するという実践自体は、志望校を他者視点で見るという観点からも面白い試みであったと考える。また、本校では「はがき新聞」掲示用の「透明ポケットミテミテ」ははがきサイズのものしか用意しておらず、A5サイズの「はがき新聞」をテーマ毎に分けて掲示する場合、一度スキャナーで取り込みデータ化したものを印刷し掲示している。この教師側の手間が、生徒の作品掲示の機会を逸してしまった一因でもあるため、以後注意すべき点である。

3 まとめ

「はがき新聞」の活用は、高校においてもまとめる能力や表現力の学習に活用できることが実践の過程およびその成果物から示された。「はがき新聞」の大きな特徴である「読み手を意識」した作成が、

- ・何を伝えたいか
- ・どうしたらよく伝わるか

を常に考えながらの作成に繋がったものとする。また、上記のことを行なうために、生徒は紙面に表す内容を事前に頭の中で推敲し、他者の表現法も取り入れることで、「はがき新聞」の質が向上していく過程を見て取ることができた。

高校における「はがき新聞」の活用は、書き方等の説明を最低限に留めることが、生徒の自由な発想を促し、様々な様式の作品作成に繋がったものとする。さらに、作品は「透明ポケットミテミテ」等を活用することで簡単に生徒間共有することができるため、他者に見られるという意識が作品の向上にも寄与したものとする。

日常的な「はがき新聞」の活用は、生徒だけでなく教員の「はがき新聞」に対する活用の閾値を下げることに繋がった。「はがき新聞」の予備用紙を多数保管し、教員が自由に活用できるようにしたことで、教員が様々な場面で独自の使い方を行なうようになった。

体験するという面においては、「はがき新聞」の活用から実際にはがきを書いて投函するという経験までを生徒に行なわせることができた。また、活用するはがき（63円の官製はがき）について、投函の実践時に郵便料金が85円に変更されていたことから、生徒は22円切手を貼るという経験も得ることができた。SNSでのコミュニケーションが中心となった現在、切手の貼り方も「日々の生活の中で学ぶ」から「教育活動の一環として教える」必要があることが、生徒の切手の貼り方を通して筆者は考えた。

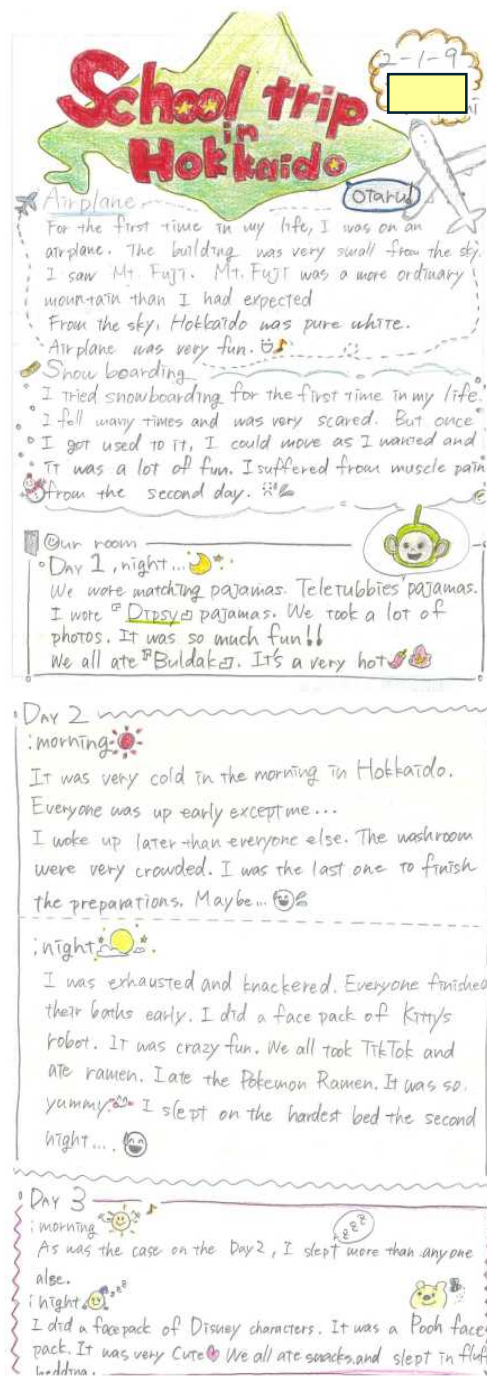
最後に、「はがき新聞」の活用は、日本語教育や多文化共生の分野でも活用されると筆者は考える。その活用法として考えられるのは、

- ・「はがき新聞」の作成に「やさしい日本語」を

用い、外国人との交流を図る。

- ・日本語を学習する外国人が、「はがき新聞」を作成することで、日本語の学習とともに、日本独特の縦書き横書きが混在する紙面文化を学ぶ
- ・日本の生徒が多文化共生を意識しながら英語で「はがき新聞」を作成する。

などである。以下に示すのは、2023年入学生が2年次に「英語コミュニケーション」の授業にて作成した、「英語での修学旅行感想はがき新聞」（A5両面）である。



SCHOOL TRIP IN HOKKAIDO

SNOWBOARDING

The most memorable thing about the school trip was definitely snowboarding. It was my first time snowboarding, but by the last day I was able to ski down a slope.



Day 1
We left for Hokkaido. I was nervous about flying for the first time in my life. I really enjoyed snowboarding on the first day.

Day 2
Enjoyed snowboarding all day. I was able to work together with everyone in the group. Dinner was very delicious.



Day 3
The Zangi bowl for lunch was very much. I had fun night skiing with my friends. The snowy scenery at night was mysterious.

Day 4
On this day, I went sightseeing in Otaru. I bought some souvenirs at the airport and went home. It was a very fulfilling four days.

About the hotel

We stayed at Rusutsu Resort. There was a very spacious and beautiful facility. There was a merry-go-round and some shops, so you could enjoy it even inside the hotel.

About training

My group learned how to snowboard on the first day, but on the third day we were able to an intermediate course on our snowboards. We all called out to each other and completed the training without any major injuries.

I enjoyed high school trip

RECREATION

- 1 DANCE
- 2 GUESS GAME
- 3 PICTURE SHIRITORI
- 4 QUIZ COMPETITION
- 5 ROCK, PAPER, SCISSORS
- 6 CHANGING TOURNAMENT
- 7 MINI SPORTS DAY

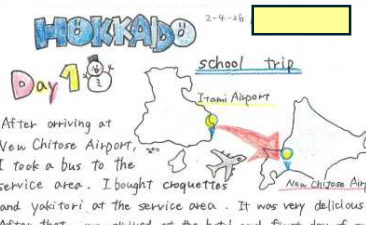
I also have very fond memories of the recreation we did on the second night.



HOKKAIDO school trip

Day 1
After arriving at New Chitose Airport, I took a bus to the service area. I bought croquettes and yakitori at the service area. It was very delicious. After that, we arrived at the hotel and first day of snowboarding began. The snow was soft and it didn't hurt even if I fell, so I had fun snowboarding.

Day 2
The second day has begun! The whole group went snowboarding and had lunch together. The curry we all ate was delicious. We did some recreation at night, watching dances, and quizzes. It was new and fun to eat sweets and talk in my room with friends. I usually only talk to at school.



Day 3
On the third day, we took the lift to the top. It was high and a little scary, but the snow was soft and I was able to ski without worrying about falling. I had free time at night, so I went snowboarding with my friends from club activities. We had a lot of fun having snowball fights and teaching each other how to snowboard.

Day 4
On the fourth day, we went sightseeing in Otaru. First, I went to eat miso ramen. I've always loved ramen, so I was really looking forward to it. It was delicious and I went to go again. After eating ramen, I went to Otaru Canal. I've been there in the summer, but it's definitely more beautiful in the winter, and I really enjoyed seeing it. On the way back, I went to New Chitose Airport. It was spacious and had a lot of souvenirs, so it was fun to buy them. A lot happened, but it was a fun 3 more and 4 days.

TOP 5
1. White lover
2. Mameji butter sandwich
3. Jaga pokkuru
4. Pumble fonnage
5. Haskop jewelry



A Guide to Otaru

2-2 33

Hello! You have a guidebook for school trips, right? That drawing was made by me! How was it?

Sightseeing

- Otaru Canal
 - A long time ago, it was used by a lot of people to transport many goods.
 - Length that it is 1100 metres wide.
 - A lot of foreign people go there because there is a promenade nearby.
 - First camp also installed on this promenade so you can enjoy the feeling of difference at noon and night.
- Otaru Canal shop
 - It is a large many box shop.
 - It was built in 1915.
 - It takes about 5 minutes from JR Hokkaido mainline and Otaru Station.
 - You can buy many boxes.
 - You can also make off-brand paper music boxes.
- Bank of Japan Former Otaru Branch Financial Museum
 - It was built in 1912 to be used as a bank.
 - It takes about 10 minutes to walk from JR Otaru Station.
 - Now, you can get an experience that lit 100 million yen.
- Otaru city overall museum
 - It opened in 2007.
 - You can look a lot of things.
 - Admission fee is 500 yen from 300 yen.
 - For example, a steam locomotive, an engine house.
- It has a lot of rooms. For instance → a laboratory, a science exhibition room.




Foods

Before Sapporo flourished, Otaru played a leading role in Hokkaido. So, Otaru has many kinds of famous and delicious food.

Sushi

Otaru has "Otaru Sushi Boulevard". Many sushi shops on that boulevard.

Example → "Otaru Maza sushi" "Nishizuka" "Sushi washoku Shikama"

Otaru bean jam dressing stir-fried noodles
Noodles, bean jam, vegetables and pork in this dish. They increase your appetite.

If you order a fried noodles in Otaru, the shop often offers bean jam dressing stir-fried noodles.

This food is local delicacy.

You can eat it in these shops.

"Chuka Hokkaido Kesen" (Chinese Cuisine Kesen)

"Torikiri An" (Torikiri An)

"Chuka Kesen" (Chinese Cuisine Kesen)

Soy sauce ramen

In Otaru, you can eat delicious ramen noodles in soy sauce soup.

It is mild in taste and you can taste the seafood.

I think you are imagining that Hokkaido's ramen is Miso! But this flavor is don't lose!

You can eat it in "Hakkyo"

This ramen shop owner has lots of green onion.

A5 サイズ